

2022年度 学校関係者評価報告書

2023年6月16日

学校関係者評価委員会
ホンダテクニカルカレッジ関西

■ 学校関係者評価

学校関係者評価とは、学校の自己評価の客観性・透明性を高め、学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ることを目的としています。具体的には、学校が策定した重点目標、計画の実施について自己評価を行い、その結果を踏まえ、今後の取組方針などについて、学校が選定した学校関係者評価委員に説明し、教育活動、学校運営等に係る課題を共有し、今後の方向性等に対する助言、評価等を頂くことで学校改善につなげることを目指しています。

■ 学校関係者評価委員会 開催概要

開催日時： 第1回 2023年6月16日 2022年度 自己評価に基づく関係者評価
 第2回 2023年11月10日 開催予定

開催場所： ホンダ テクニカル カレッジ 関西

委員長： 木村 一年 様 本田技研工業株式会社 コーポレート管理本部 人事統括部 関係会 社人事労政課 主幹

委員： 水口 和明 様 株式会社 ホンダモビリティ近畿 取締役 管理本部 本部長 コンプライアンスオフィサー
河井 政昭 様 株式会社ホンダ泉州販売 サービス部 部長
山本 敦 様 ホンダ テクニカル カレッジ 関西 後援会 会長

学校側 出席者： 五月女 浩 校長
 西山 忠臣 教頭 兼 学務室 室長（本委員会事務局）
 寺尾 典篤 教務部 部長
 神通 邦彦 教務部一級自動車研究開発学科 科長
 白石 拓三 教務部 自動車整備科 科長
 後藤 俊介 教務部 自動車整備留学生科 科長

■ 評価プロセス (第一回委員会)

- 委員会開催前に学校側より委員の方々に2022年度自己評価書をお送りし、ご意見・ご質問をいただきました。
- 委員会では、学校側より学園概要、教育内容、2023年度の重点課題、重点目標を説明し、まず委員会での課題共有を図りました
- その後、2022年度自己評価書の内容説明及び事前にいただきましたご意見・ご質問への回答・コメントをさせていただき、質疑応答を通して意見交換を行い、更に詳細に課題認識を深めました。
- そして、学校関係者評価委員会としてこの最終評価をまとめました。以下に、基準ごとの評価結果を報告致します。

■ 評価結果

基準 1 : 教育理念・目的・育成人材像等

- 教育理念・目的が明確に定められており目指す人材像が想像できます。メーカー校の特色を活かしモビリティ社会に貢献できる人材の育成をお願いします。
- 「時代にあった教育カリキュラムの確立」は、中期方針で掲げた、グローバルで活躍できる整備士・技術者人材の育成に繋がる課題認識であり、世の中からホンダ学園が選ばれる学校となることを期待します。

基準 2 : 学校運営

- 再設定した中長期ビジョンの実現に向けて方針や施策の展開をお願いします。
- 日本国内の社会的背景やコロナ禍に伴う留学生の減少など、学生確保は非常に厳しい状況と推察しますが、学生200名確保に向けた具体的な取組をお聞かせください。
- 学生数の減少による厳しい学校運営の問題については理解できますが、運営そのものが目的とならないよう、学生から魅力ある「ホンダ学園」としての成長を期待します。
- 情報システム化等による業務の効率化は、近年の学校運営の重点課題と認識します。財務システムの汎用化、学事システムの改善の遅れ等について、その課題改善に向けた推進を加速して下さい。

基準 3 : 教育活動

- 退学率を3%以下に抑えるとともに、休学者へのフォローと復学に向けたきめ細かい推進を引き続きお願いします。
- メーカー校として自動車技術高度化への対応やモビリティ社会を見据えたカリキュラムの変更など社会に貢献できる人材育成に努められている。
- 基礎学力の低下が問題視されていますが、原因はどの程度把握されているのでしょうか。学生数確保のために入学時の選考レベルが下がっているという事はありませんか。選考レベルを上げて成績優秀な学生に絞り込むことは可能だと恩いますが、おそらく現状のままでは学生数が減少することになるので志願者を増やすことが先決だと思います。
- 学生の能力や技術の革新に合わせた授業内容の改革は、メーカー校としての優位性を担保するうえでも必要な取り組みであると認識します。

基準 4 : 教育成果

- 2023年度の主要資格合格率100%を必達できるよう、学生への支援を引き続きお願いします。
- 前年度の退学率は4.8%であり、退学理由が学業不振の割合はどの程度でしょうか。
- 主要資格不合格者のうち、学業不振と判断されていた学生はどの程度を占めるのでしょうか。
- 退学希望者への対応見極めは、より慎重にお願いします。
- 整備士試験は惜しくも100%合格とは成りませんでしたが高合格率であり、又、就職内定率は100%と教育の成果が発揮されている。しかし、学生の就職活動時期の遅れは企業としても感じており学生の指導をお願いします。
- 高い就職率と資格取得率、大学や専門学校では教育カリキュラムにないと思われる社会人マナーとマインドの教育については、学生本人だけでなく保護者の方にも素晴らしいアピールポイントです。専門学校という理由で志望校の対象から除外されるケースもあると思いますが、4年制であれば大学本業と同等であるという点を認識していただく必要があると思います。
- 就職内定率や主要資格の高い合格率は、学校関係者の皆様の日々のご努力の賜物と認識します。一方、退職率低減に向けたカウンセラーによる学生のメンタル面へのサポートは、重要な取り組みです。学生とのコミュニケーションの充実や個々の状況把握も必要ですが、先生の負荷軽減に繋がるものであるため、引き続き協業をお願いします。

基準 5：学生支援

- ・ 就労条件の一つとなる運転免許の早期取得推進については、進路指導等の一環として引き続きよろしくお願いいたします。
- ・ 様々な支援体制が構築されており、引き続き学生のフォローをお願いします。
- ・ Cars企業奨学金制度に関しましては展開の遅れを感じています。私ども企業側も含め、より周知する必要があります。
- ・ 学生寮の閉鎖は残念ですが、やむを得ない事情があったと認識しています。しかし遠方から就学を希望される学生も少なからずおられると思うので、何らかの補助制度があれば志望しやすくなるのではないかと思います。学生寮の維持管理に負担していた費用を利用できないでしょうか。
- ・ 新型コロナウイルスの位置づけが2類から5類感染症に変更となり、ともするとコロナに対する認識が緩みがちになることを懸念しています。学校関係者の皆様は、学生の生活意識の変化に注視しつつ、模範となる行動も期待します。

基準 6：教育環境

- ・ 校内を見学した際に、十分な学習用の教材(車両)があったと感じています。本田技研との関係から他の自動車関係の専門学校と比較して有利だと思います。この点も志望を検討されている学生さんに認知していただきたいところです。
- ・ 教育環境は十分に整備されていると認識します。

基準 7：学生募集と受け入れ

- ・ 日本国内の高校生に対する募集については、大変な労力と推察いたしますが引き続き組織的対応を強化推進していただくようお願いいたします。ホンダ系列販売店として、企業推薦制度や奨学金関連制度をさらに拡大できるよう推進してまいります。
- ・ Cars企業奨学金制度の周知や中、高校生のインターンシップ（仕事体験）の受入れなど販売会社としても積極的に学生募集に関わって参ります。
- ・ 個人的に知名度や認知度が低いのが問題ではないかという印象です。ホンダ学園の存在を知らないことで、志願者が少ないのではないかと考えています。
- ・ 将来の整備士を目指す若年層に対し、体系的な取り組みを実施していくことが重要であると認識します。高校生年代のみならず、中学生年代に対して何をすべきか。ホンダグループが一体となり検討し、手を打つ必要があると思います。

基準 8：財務

- メーカー校としての魅力が経費削減により劣化することが無いよう、バランスをとった取組みをお願いいたします。
- 新入学生の減少により、学校の財務状況は厳しい状況が続きます。収支均衡を是とする効率的な学校運営と体質強化の取組みに期待します。

基準 9：法令等の遵守

- 近年では指定整備に関する法令違反が全国の整備事業者で発生しています。日本国内の整備事業は法律によって支えられ守られている職業であり、法令遵守が自身の重要性について理解されるよう引き続き教育をよろしくをお願いいたします。
- 学校教育法に準じて問題なく運営されていると信頼しております。文部科学省と国土交通省の指導のもと、厳正な学校運営がなされており、重大な法令違反や機密情報漏洩事例の発生もありません。引き続き自己点検の活動を緩めることなく、法令順守の活動をお願いします。

基準 10：社会貢献

- 地域清掃や献血など、継続して実施していただければ良いと思います。引き続き、地域社会への貢献活動をお願いします。
- 常に地域の環境変化や生活スタイルの変化を認識し、社会（地域）に歓迎される学校であることを期待します。

その他

- 根本的に運営に関することですが、安定的な学生数の確保が重要だと思います。3. 教育活動や7. 学生の募集と受け入れに関連するのですが、知名度をアップさせることで志願者数の増加をはかり、結果として選考レベルが向上することで基礎学力の向上が期待できるのではないかと考えます。まずホンダ学園を広く認知させる事が志願者の増加と学校存続にとって重要ではないかと思えます。

■ まとめ

- 自己点検・自己評価報告書や委員会で学園概要、教育内容、2022年度の重点課題、重点目標などの確認を行ない、前期レビューや昨今の環境認識を含めて重点課題を明確にして取り組まれていることを確認しました。
- 今年度、重点課題としている事項への対応については確実な実績・成果に繋げるため、きめ細かな進捗管理を行なって取り組み強化をお願いします。
- ホンダ学園が地域から愛される学園に向けて 建学の志に則って地道に活動を続けていくことが重要だと考えます。